令和７年度
ビジネス科　３年
シラバス

国語表現
国語表現（三修制）
歴史総合
数学Ａ
生物基礎
体育
音楽Ⅰ
論理・表現Ⅰ
課題研究
マーケティング（三修制）
ビジネス法規（三修制）
簿記（四修制）
簿記（三修制）

令和７年度　シラバス　　（ 国語表現 ）

教科	国語	単位数	２	学年（年次）	３年
使用教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	国語便覧（大修館書店）・常用漢字の級別学習（京都書房）	

１　科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	言葉と出会う ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・実践トレーニング①	・表記の決まりを意識して、正しい言葉を用いて書く。 ・係り受けや文末表現が不統一な文を、整った文となるように書き直す。 ・相手や場面によって言葉を使い分け、ふさわしい言葉遣いで表現をする。 ・自分が書いた文や文章が読み手にわかりやすく伝わるかどうか吟味し、適切に書き換える。 ・自分の思いや考え方が効果的に伝わるように、接続表現の使い方に気を付けて文章を整える。 ・書かれた文を吟味し特長や課題をとらえ直して表現する。
	期末	伝える、伝え合う ・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操 ・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう	・取り上げる内容や話し方に工夫をして、わかりやすく自己紹介をする。 ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じたコミュニケーションをする。 ・絵や写真を見て、わかりやすく正確に文章で説明をする。 ・5W1H を明確にし、事実と意見を区別して文章を書く。
後期	中間	メディアを駆使する ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方	・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。 ・初対面や目上の相手に対する電話のやり取りをする。 ・マナーや使い方に留意をして、電子メールを作成する。 ・ネット社会におけるツールについて、それぞれの特徴や留意点を話し合う。
	期末	・ネットを活用した情報収集 ・メディアと情報 表現を楽しむ ・言葉で遊ぶ ・無人島で生き残れ ・日常生活の正しい過ごし方	・ウェブサイトの種類ごとの特徴や、有効な活用の仕方について話し合う。 ・気になるニュースについて、メディアごとの取り上げ方を比べる。 ・さまざまな言葉遊びをして、表現することを楽しむ。 ・自分の思いや考えを伝え、話し合いによって課題を解決する。 ・日常生活の中から題材を選び、自分ならではの取扱説明書を書く。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値に対する認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【評価方法】

定期テスト、提出物（ノートやレポートなど）、授業態度、漢字検定へ向けた取り組み姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 国語表現 ）

教科	国語	単位数	２	学年（年次）	３年（三修制）
使用教科書	国語表現（大修館書店）		副教材等	国語便覧（大修館書店）・常用漢字の級別学習（京都書房）	

１　科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	小論文・レポート入門 ・小論文とは何か ・反論を想定して書く ・文章を読み取って書く ・統計資料を読み取って書く ・発想を広げて書く ・レポートを書く	・小論文と作文の違いを踏まえて、筋道を立てて自分の意見を書く。 ・適切な根拠を効果的に用いて、反論を想定した小論文を書く。 ・文章の要旨をつかみ、資料に対する自分の意見を書く。 ・統計資料から読み取ったことを踏まえて論点を整理し、小論文を書く。 ・テーマをもとに発想を広げて小論文を書く。 ・客観的な根拠を集め、説得力のあるレポートをまとめる。
	期末	自己 PR と面接 ・自分を見つめて ・効果的な自己 PR ・将来の自分を考えよう ・志望理由を書こう ・面接にチャレンジ	・他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。 ・事実やできごとを踏まえて、効果的な自己 PR をする。 ・調べたことを踏まえて、将来の自分について文章にまとめる。 ・やりたいことや自己 PR を結び付けて、説得力のある志望理由を書く。 ・質問に対して、具体的で説得力のある答え方で答える。
後期	中間	会話・議論・発表 ・相手や場面に応じた会話 ・建設的な議論の進め方 ・スピーチをしよう ・プレゼンテーションの工夫	・場面にふさわしい言葉遣いを考え、適切な言葉でロールプレイをする。 ・話し合いのステップを意識しながら、協力し合って話し合いに参加する。 ・話すことの順序を考えて、わかりやすいショートスピーチをする。 ・聞き手の興味を引くような工夫をして、わかりやすく発表する。
	期末	表現を楽しむ ・魅力的なポスターを作ろう ・「わが町自慢」のパンフレット作り ・働く人にインタビュー ・たほいやゲームをしよう ・「私の虫類図譜」を作ろう	・レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る。 ・内容の構成や冊子の体裁に工夫をしてパンフレットを作る。 ・聞き取ったことを整理し、効果的な伝え方を工夫して文章にまとめる。 ・辞書の言葉の定義の仕方を意識し、わかりやすく適切な定義を書く。 ・想像を膨らませ、自分が考えた「虫」の特徴を、具体的にイメージが伝わるように書く。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値に対する認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【評価方法】

定期テスト、提出物（ノートやレポートなど）、授業態度、漢字検定へ向けた取り組み姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 歴史総合 ）

教科	歴史総合	単位数	2	学年（年次）	3 年
使用教科書	明解　歴史総合（帝国書院）		副教材等	なし	

1　科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	第３部　国際秩序の変化や大衆化と私たち ３章　日本の行方と第二次世界大戦	・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について，大衆とマスメディアの関わりに着目しながら，資料を読み取り，理解する。 ・ファシズム体制の形成から終戦に至るまで，大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し，みずからの言葉で表現する。 ・世界恐慌後の各国の政治的判断と，大衆の戦争協力が，現代社会に与えた影響と課題について追究する。
	期末	４章　再出発する世界と日本 第４部　グローバル化と私たち 序章　グローバル化への問い	・冷戦構造の形成と，国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について，日本と関連付けながら資料を読み取り，理解する。 ・国際連合を中心に，第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで，戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し，みずからの言葉で表現する。 ・大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が，現代社会に与えた影響と課題について追究する。
後期	中間	１章　冷戦で揺れる世界と日本	・冷戦下の緊張と緩和の経緯と，そのなかでの日本の高度経済成長や，脱植民地化を目指す動きについて，資料を読み取り，理解する。 ・冷戦下の世界と日本の動向について，政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し，みずからの言葉で表現する。 ・冷戦下における各国の動向が，現代社会に与えた影響と課題について追究する。
	期末	２章　多極化する世界 ３章　グローバル化のなかの世界と日本	・冷戦下の 1960 年代から 80 年代における各国の選択と経済成長について，資料を読み取り，理解する。 ・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について，資料を読み取り，理解する。 ・グローバル化の進展や地域統合，ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し，その特質や問題点をみずからの言葉で表現する。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が，現代社会に与えた影響と課題について追究する。

3　評価の観点,内容および評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめることができる。	歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり,思考・判断したことを説明し，それらを基に議論したりすることができる。	歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。

【評価方法】

定期考査、平常の学習活動、ノートなどの提出物を上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 数学Ａ ）

教科	数学	単位数	２	学年（年次）	３年
使用教科書	新 高校の数学Ａ（数研出版）		副教材等	なし	

１　科目の目標

場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	第１節　場合の数 １．集合 ２．集合の要素の個数 ３．和の法則と積の法則 ４．順列	・共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合など集合に関する用語を理解し、それらを求める。 ・集合の要素の個数を、数え上げることで求める。 ・補集合や和集合の要素の個数の公式を理解し、それらを用いて要素の個数を求める。 ・樹形図を用いたり順序だてて並べたりすることで、場合の数をもれなく重複なく数える。 ・和の法則や積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求める。 ・順列の意味を理解し、簡単な場合の数を、順列の考えを利用して求める。
	期末	５．組合せ	・階乗とその記号を理解し、それを活用する。 ・様々な場合の数を、順列、円順列、重複順列で求める。 ・組合せの総数と順列の総数の関係を理解し、順列の総数をもとにして、組合せの総数を求める。 ・組合せの意味を理解し、簡単な場合の数を、組合せの考えを利用して求める。
後期	中間	第２節　確率 １．事象と確率 ２．確率の計算	・様々な場合の数を、組合せの考えを利用して求める。 ・組合せの考え方を利用して、図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求める。 ・確率の定義を理解し、簡単な確率を求める。 ・表や組合せの考えを活用して、確率を求める。 ・排反事象や余事象の意味を理解し、それらの確率を求める。
	期末	３．独立な試行と確率 ４．条件つき確率 ５．期待値	・試行が独立か、独立でないかを判断する。 ・独立な試行の意味を理解し、その確率を求める。 ・反復試行の意味を理解し、その確率を求める。 ・条件つき確率の定義を理解し、確率を求める。 ・確率の乗法定理を理解し、確率を求める。 ・期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求める。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

【評価方法】

定期考査や小テスト、平常の学習活動、学習プリントやノートなどの提出物を上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 生物基礎 ）

教科	理科	単位数	2	学年（年次）	3 年
使用教科書	生物基礎（東京書籍）		副教材等	なし	

1　科目の目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	1 編　生物の特徴 第 1 章　生物の多様性と共通性 ・生物の多様性 ・生物の共通性 ・細胞の特徴	・地球上で生活する生物の多様性は，進化の結果生じたものであることを理解する。 ・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・原核細胞の構造について理解する。
	期末	第 2 章　生物とエネルギー ・生体と ATP ・酵素のはたらき ・呼吸と光合成	・ATP が，アデニン，リボース，リン酸が結合した物質であることを理解する。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・呼吸におけるグルコースの分解反応について理解する。 ・光合成は，ATP の合成から始まることを理解する。
後期	中間	2 編　遺伝子とそのはたらき 第 1 章　遺伝情報と DNA ・生物と遺伝子 ・DNA の構造 ・DNA の複製と分配	・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい，遺伝は遺伝情報である DNA によって担われていることを理解する。 ・DNA 模型の作製を通して，遺伝情報の担う物質としての DNA の特徴を見いだす。 ・結合する塩基に相補性があることを理解する。 ・シャルガフの規則をもとに，塩基の割合を計算する。 ・DNA の複製は正確に行われることを理解する。
	期末	第 2 章　遺伝情報とタンパク質の合成 ・タンパク質 ・タンパク質と遺伝情報 ・細胞の分化と遺伝子	・タンパク質はアミノ酸がつながった分子であることを理解する。 ・DNA の遺伝情報は，まず mRNA に転写された後，アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ（セントラルドグマ）を理解する。 ・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで，多種の細胞に分化することを理解する。

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生物現象について、基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身に付けている。また、生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど，科学的な見方や考え方を身に付けている。

【評価方法】

定期考査や小テスト、平常の学習活動、ノートなどの提出物を上記の 3 つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 体育 ）

教科	体育	単位数	2	学年（年次）	3 年
使用教科書	新高等保健体育		副教材等	新高等保健体育ノート	

1　科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	体つくり運動 球技（バレーボール）	・心と体は互いに影響し変化することに気付き、仲間と主体的に関わりあうことができる。 ・状況に応じたボール操作と連携した動きによって攻防を展開することができる。 ・技能の習得に主体的に取り組むことができる。 ・チームや事故の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・ルールやマナー、フェアプレイを大切にしようとすることができる。
	期末	球技（バスケットボール）	・状況に応じたボール操作と空間への侵入などから攻防を展開することができる。 ・技能の習得に主体的に取り組むことができる。 ・チームや事故の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・ルールやマナー、フェアプレイを大切にしようとすることができる。
後期	中間	球技（バドミントン）	・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって攻防を展開することができる。 ・技能の習得に主体的に取り組むことができる。 ・チームや事故の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・ルールやマナー、フェアプレイを大切にしようとすることができる。
	期末	陸上競技（長距離走） 体育理論	・ペースの変化に対応して走ることができる。 ・陸上競技に主体的に取り組むことができる。 ・自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点を指摘することができる。 ・運動やスポーツの技術と技能、技能の上達過程、技能と体力の関係について理解できる。 ・運動やスポーツの活動時の健康、安全の確保の仕方について理解できる。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができる。

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の取り組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

【評価方法】

平時の学習活動、実技においての技能の習得、学習プリント等を上記の３つの観点から評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 音楽Ⅰ ）

教科	芸術	単位数	2	学年（年次）	3年
使用教科書	音楽Ⅰ Tutti＋（教育出版）		副教材等	ミュージックノート	

1　科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばして、音楽文化についての理解を深める。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	理論Ⅰ ソルフェージュⅠ 実技Ⅰ 鑑賞Ⅰ	階名速読演習１（６０秒で行う） 音符、休符、音楽用語、記号の演習 旋律聴音１（1点C～1点G） リズム打ちソルフェージュ 歌唱が組み込まれたミュージカル映画の鑑賞
	期末	理論Ⅱ ソルフェージュⅡ 実技Ⅱ 鑑賞Ⅱ	階名速読演習２（５０秒で行う） 音符、休符、音楽用語、記号の演習 旋律聴音２（1点A～2点E） 指揮法（２拍子、３拍子、４拍子） 歌唱が組み込まれたミュージカル映画の鑑賞
後期	中間	理論Ⅲ ソルフェージュⅢ 実技Ⅲ 鑑賞Ⅲ	階名速読演習３（４０秒で行う） 音符、休符、音楽用語、記号の演習 旋律聴音３（1点C～2点E） 世界の名歌を美しい発声で歌う 歌唱が組み込まれたミュージカル映画の鑑賞
	期末	理論Ⅳ 実技Ⅳ 鑑賞Ⅳ	階名速読演習４（３０秒で行う）。 音符、休符、音楽用語、記号の演習 クラシックギター 歌唱が組み込まれたミュージカル映画の鑑賞

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
時間内で速読プリントを行うことができる。 相対音感を身に付けることができる。 楽譜上の用語や記号を理解することができる。	リズムに乗って音程正しくかつ美しい声や音でメロディーを奏でることができる。	練習問題､聴音書き取りなどの演習に取り組み､歌唱を初めとする実技に対して前向きに楽しく音楽を奏でようとしている。

【評価方法】

定期考査による実技や筆記、授業で行う課題やプリントの提出物、実技を行う姿勢や意欲、態度を上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 論理・表現Ⅰ ）

教科	英語	単位数	2	学年（年次）	3 年
使用教科書	MY WAY Logic and Expression Ⅰ		副教材等	高校英語の基礎づくり ﾌﾟﾚｯﾌﾟｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ[4 訂版]	

1　科目の目標

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き、言語の背景などを学び、実際の英語使用の場において、目的や場所、状況などに応じて適切に英語を活用できる技能を身に付ける。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	LESSON 1 Let’s talk about Ourselves LESSON 2 School Life	・「現在形(be 動詞/一般動詞)」「過去形(be 動詞/一般動詞)」の文法を理解する。 ・題材に対し、基本的な語句や文を用いて、自分の考えや気持ちなどを MetaMoJi やパワーポイントを使い、発表する。 ・題材に対する有用な表現を学習し、ペアやグループになり、即興で自身の考えや気持ちを伝え合う。 ・「自己紹介」「好きな教科」「学校生活」に関する表現を学び、ALT や他の生徒に対し自身の情報を伝える。
	期末	LESSON 3 The Arts	・「現在進行形／過去進行形」の文法を理解する。 ・題材に対し、基本的な語句や文を用いて、自分の考えや気持ちなどを MetaMoJi やパワーポイントを使い、発表する。 ・題材に対する有用な表現を学習し、ペアやグループになり、即興で自身の考えや気持ちを伝え合う。 ・「芸術」に関する表現を学び、ALT や他の生徒に対し自身の情報を伝える。
後期	中間	LESSON 4 Food and Culture	・「現在完了形/現在完了進行形」の文法を理解する。 ・題材に対し、基本的な語句や文を用いて、自分の考えや気持ちなどを MetaMoJi やパワーポイントを使い、発表する。 ・題材に対する有用な表現を学習し、ペアやグループになり、即興で自身の考えや気持ちを伝え合う。 ・「料理」「文化」に関する表現を学び、ALT や他の生徒に対し自身の情報を伝える。
	期末	LESSON 5 Welcome to Our Town	・「助動詞」「受動態」の文法を理解する。 ・題材に対し、基本的な語句や文を用いて、自分の考えや気持ちなどを MetaMoJi やパワーポイントを使い、発表する。 ・題材に対する有用な表現を学習し、ペアやグループになり、即興で自身の考えや気持ちを伝え合う。 ・「地元紹介」「道案内」に関する表現を学び、ALT や他の生徒に対し自身の情報を伝える。

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学んだ文法、語彙や表現などの用法や意味を理解している。 学習した文法や語句を使い、自分の考えや意見を発信する技能を身に付けている。	本文の要点を捉えている。 学習した文法や語彙や表現、簡単な語句を用いて、相手を意識し、自分の考えや意見を伝え合ったり、発表したりする。理由や根拠を示しながら、文章が書ける。	新出語句や文法を主体的に理解しようとする。 自分の考えを伝え合ったり、発表したり、理由や根拠を示しながら、まとまりのある文章を書こうとする。

【評価方法】

定期考査、様々な活動のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ評価、提出物、授業態度、英検に向けて取り組む姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 課題研究 ）

教科	商業	単位数	3	学年（年次）	3 年
副教材等	ビジネス文書・情報処理・簿記問題集				

1　科目の目標

生徒自らが設定した課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図るとともに、主体的に取り組む態度を育成し、自己の生き方について自覚を深めさせる。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	・ビジネス文書、簿記、情報処理等	・一斉及び個別学習形態により、ビジネス文書検定を中心として、簿記や情報処理など生徒の興味・関心に合わせて幅広く学習する。
	期末	・ビジネス文書、簿記、情報処理等	・一斉及び個別学習形態により、ビジネス文書検定を中心として、簿記や情報処理など生徒の興味・関心に合わせて幅広く学習する。
後期	中間	・ビジネス文書、簿記、情報処理等	・一斉及び個別学習形態により、ビジネス文書検定を中心として、簿記や情報処理など生徒の興味・関心に合わせて幅広く学習する。
	期末	・ビジネス文書、簿記、情報処理等 ・プレゼンテーション	・一斉及び個別学習形態により、簿記や情報処理検定に向けて学習する。 ・プレゼンテーション作品制作、発表

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
商業の各分野について実務に即して体系的･系統的に理解するとともに､相互に関連付けられた技術を身に付けている。	商業の各分野について課題を発見し､解決するための思考力・判断力・表現力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

【評価方法】

定期考査、実習を含む課題の提出状況、授業中における学習態度、発表などの学習活動、検定試験へ向けた取り組み姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス（ マーケティング ）

教科	商業	単位数	２	学年（年次）	３年（三修制）
使用教科書	マーケティング（実教出版）		副教材等	なし	

１　科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を育成する。

①マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。

②マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

③ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	１章 マーケティングの概要 ２章 消費者行動の理解	・市場環境の変化、マーケティングの発展などマーケティングに関する知識と意義、課題について理解する。 ・消費者心理、消費者の意思決定の過程、購買行動、消費者のその後の行動に影響を及ぼす要因について理解する。
	期末	３章 市場調査 ４章 ＳＴＰ	・市場調査の目的と方法、市場調査に関する知識と技術などに基づいて必要な情報の収集と分析について理解する。 ・市場調査で収集したデータを活用したセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの概要について理解する。
後期	中間	５章 製品政策 ６章 価格政策 ７章 チャネル政策	・製品政策の概要と目的など製品政策に関する知識を理解する。 ・価格政策の概要と目的など価格政策に関する知識を理解する。 ・チャネル政策の概要と目的などチャネル政策に関する知識を理解する。
	期末	８章 プロモーション政策 ９章 マーケティングのひろがり	・プロモーション政策の概要と目的などプロモーション政策に関する知識を理解する。 ・経済のグローバル化や観光地でのマーケティング、顧客ニーズの多様化など市場環境が変化する中で、マーケティングの考え方の広がりについて理解する。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における事例など実際のマーケティングと関連付け、ビジネスの様々な場面で役立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	マーケティングの様々な知識と技術を活用し、マーケティングに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、科学的根拠に基づいて工夫し解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングを学ぶ態度と組織の一員として自己の役割を認識し、責任をもって取り組む態度を身に付けている。

【評価方法】

定期考査ならびに課題、レポート等の提出状況とその内容、授業に臨む態度や発表と内容を上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス（ ビジネス法規 ）

教科	商業	単位数	３	学年（年次）	３年（三修制）
使用教科書	ビジネス法規（実教出版）		副教材等	なし	

１　科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する。

①ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解できるようにする。

②法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。

③ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	１章 法の概要 ２章 権利・義務と財産権	・法とはどんなものか、その本質を明らかにし、法の体系を理解する。 ・われわれの生活は法律関係で成り立っている。その法律関係は即権利・義務の関係である。その権利・義務の意義、関係そして主体について学習し理解する。
	期末	３章 財産権の変動 ４章 企業活動と法規	・財産権の変動、権利の発生・変更・消滅はほとんど契約による。その契約について理解させる。また「ビジネス法規」学習の中核的部分の学習であることを理解する。 ・営利社団法人としての株式会社の法律的意義を学習する。
後期	中間	５章 企業責任と法規 ６章 紛争の解決と予防 （前半部分）	・雇用主の立場から、労働者の保護の重要性と課題及び法規の概要について理解する。また企業の立場から、消費者の保護の重要性と課題及び法規の概要についても理解する。 ・紛争の解決方法として和解・調停・仲裁および民事訴訟のあることを学習し、それぞれの制度の特色を理解する。
	期末	６章 紛争の解決と予防 （後半部分） ７章 税と法規	・紛争の予防制度としての公証制度を理解する。 ・確定判決の国家権力による実現としての強制執行のあることを理解する。 ・国税・地方税など税の種類と分類、法人税など法人に対する税、不動産に対する税及び、内国法人と外国法人の納税義務についても理解する。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
企業における事例や不祥事など実際のビジネス法規と関連付け、ビジネスの様々な場面で役立つビジネス法規に関する理論と知識を身に付けている。	ビジネス法規の様々な理論や知識を活用し、ビジネス法規に関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、法律的根拠に基づいて工夫し解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネス法規を学ぶ態度と組織の一員として自己の役割を認識し、責任をもって取り組む態度を身に付けている。

【評価方法】

定期考査ならびに課題、レポート等の提出状況とその内容、授業に臨む態度や発表と内容を上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 簿記 ）

教科	商業	単位数	4	学年（年次）	３年
使用教科書	「簿記」（東京法令出版）		副教材等	標準検定簿記問題集　全商３級 全商簿記実務検定模擬試験問題集３級	

1　科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業における簿記の仕組みについて理解し、取引の記録と財務諸表の作成に必要な能力を育成する。

2　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	第Ⅰ編　簿記の基本 企業の簿記、資産・負債・純資産―貸借対照表―、収益・費用―損益計算書―、取引と勘定、仕訳と勘定への記入、仕訳帳と総勘定元帳、試算表、決算	・簿記が企業の経営活動を会計帳簿に記録し、計算・整理するための記帳技術であることを学ぶ。 ・勘定について学び、財務諸表の役割と作成について学ぶ。 ・簿記上の取引を仕訳して転記することが、簿記の基本となることを理解し、その記帳方法について学ぶ。 ・決算の目的および一連の決算の流れについて理解し、手続きに必要な決算の方法について学ぶ。
	期末	第Ⅱ編　各種取引の処理 現金・預金の記帳、 商品売買の記帳、掛取引の記帳、手形取引の記帳 その他の債権・債務の記帳 有価証券の記帳 固定資産の記帳、販売費と一般管理費の記帳 個人企業の純資産の記帳 税金の記帳	・現金の入金・出金、当座預金の預け入れ・引出しの記帳、出納帳の作成方法、記帳について学ぶ。 ・３分法による商品売買に関する取引の記帳について理解し仕訳や補助簿の記帳方法について学ぶ。 ・商品受渡し前の代金の受払い、金銭貸し借り、金額や勘定科目が未確定な場合などの債権・債務の記帳法などについて、どの場合にどの勘定科目を用いて正しく仕訳をするか学ぶ。 ・有価証券や固定資産などについて知り、記帳について学ぶ。 ・個人企業の純資産、各種税金の記帳方法について知る。
後期	中間	第Ⅲ編　決算（１） 決算整理（その１） 第Ⅳ編　会計帳簿 帳簿、３伝票制による記帳 第Ⅴ編　特殊な取引 特殊な手形取引の記帳	・決算整理の意味と記帳法について理解する。 ・８桁精算表・貸借対照表と損益計算書を作成する方法を学び、帳簿を締め切り正しい記帳方法を身に付ける。 ・会計帳簿の種類と役割について学ぶ。 ・伝票の起票方法について学ぶ。 ・特殊な手形取引の記帳について学ぶ。
	期末	第Ⅵ編　決算（２） 決算整理（その２） 第Ⅶ編　本支店会計 本支店間取引 財務諸表合併 第Ⅷ会計ソフトウェア コンピュータを利用した会計処理	・進んだ決算整理について学び、計算方法や評価、費用・収益の繰延べ・見越しを理解し、正しく記帳できるようにする。 ・財務諸表を正しく作成する方法を身に付ける。 ・本支店会計間の取引や支店相互間の取引の基本的な記帳法と合併財務諸表の作成方法について理解し、企業全体の財政状態や経営成績を明らかにする方法を学ぶ。 ・コンピュータ会計のメリット・注意点を理解し、会計システムを用いて効率的に取引の記録する方法を学ぶ。

3　評価の観点、内容および評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記の基本的な仕組みについて理解し、実務に関連付けてビジネスのさまざまな場面で役立つ知識と技術が身に付いている。	簿記の知識・技術を活用し、取引に応じた場面でどの記帳が必要か考え、正しく判断できる力、適切に表現することができる力が身に付いている。	組織の一員としての役割を認識し、粘り強く学ぶ姿勢で、記帳などの内容と必要性を正確に理解し、主体的かつ責任を持って取り組もうとしている。

【評価方法】

定期考査、小テスト、課題提出状況、学習態度、検定試験へ向けた取り組み姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。

令和７年度　シラバス　　（ 簿記 ）

教科	商業	単位数	２	学年（年次）	３年（三修制）
使用教科書	「簿記」（東京法令出版）		副教材等	標準検定簿記問題集　全商２級 全商簿記実務検定模擬試験問題集２級	

１　科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業における簿記の仕組みについて理解し、取引の記録と財務諸表の作成に必要な能力を育成する。

２　学習計画

学期		単元名	主な学習活動
前期	中間	第Ⅴ編　特殊な取引 特殊な手形取引の記帳 第Ⅵ編　決算（２） 決算整理（その２）	・特殊な手形取引の記帳について、どの場合にどの勘定科目を用いて仕訳をするかを学ぶ。 ・進んだ決算整理について学び、減価償却の計算、有価証券の評価、当座借越、費用・収益の繰延べ、費用・収益の見越しについて正しい計算方法を理解する。
	期末	第Ⅵ編　決算（２） 決算整理（その２）	・より進んだ決算について、正しく記帳できるようにする。 ・控除形式の貸借対照表・２区分の損益計算書を作成する方法について学び、資料をもとに財務諸表を正しく作成することができるようにする。
後期	中間	第Ⅶ編　本支店会計 本支店間の取引 本支店財務諸表の合併 第Ⅷ会計ソフトウェア コンピュータを利用した会計処理	・支店会計が独立している場合の本・支店間の取引や支店相互間の取引の基本的な記帳方法について理解し、企業全体の財政状態や経営成績を明らかにする方法を学ぶ。 ・利害関係者に内部利益を控除した本支店合併の財務諸表を報告することの意義を理解する。 ・コンピュータ会計のメリット・注意点を理解し、会計システムを用いて効率的に取引の記録する方法と財務諸表の作成を学ぶ。 ・基礎的な活用方法に関する実習を行う。
	期末	発展的な内容 その他の債権・債務 電子記録債権・電子記録債務 クレジット売掛金	・電子記録債権・電子記録債務の概要とそのしくみについて理解する。 ・クレジット取引に関する基礎的な知識を身に付け、クレジットによる商品売買に関する記帳について学ぶ。

３　評価の観点、内容および評価方法

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
簿記の基本的な仕組みについて理解し、実務に関連付けてビジネスのさまざまな場面で役立つ知識と技術が身に付いている。	簿記の知識・技術を活用し、取引に応じた場面でどの記帳が必要か考え課題を見いだし、正しく判断できる力・適切に表現することができる力が身に付いている。	組織の一員としての役割を認識し、粘り強く学ぶ姿勢で、記帳などの内容と必要性を正確に理解し、主体的かつ責任を持って積極的に取り組もうとしている。

【評価方法】

定期考査、小テスト、課題提出状況、学習態度、検定試験へ向けた取り組み姿勢などを上記の３つの観点により評価したものと出席状況により総合的に評価します。